

試験研究成果普及情報

部門	花植木	対象	普及
課題名：パッションフルーツの鉢物栽培法			
<p>[要約]パッションフルーツ「紫 100g 玉」(<i>Passiflora edulis</i>×<i>P. edulis</i> f. <i>flavicarpa</i>)を10月上旬に2節挿しを行い、5月上旬から1か月に1回、緩効性肥料を用いて窒素成分で1.6g/鉢施用すると、5月中旬～6月下旬に行燈仕立てで5割程度被覆した状態となり出荷可能となる。また、3月上旬から15℃加温栽培することで、同時期に開花・結実した状態で出荷できる。</p>			
フリーワード [※] 鉢物、実物植物、パッションフルーツ			
実施機関名	主 査 農林総合研究センター花植木研究室 協力機関		
実施期間	2012年度～2014年度		

[目的及び背景]

近年消費者ニーズの多様化により花や葉の観賞性に加え、実も楽しめる実物植物が鉢物として注目されている。

パッションフルーツは果実の食味性が高く、新たな果樹として県南部を中心に栽培されている。また、花形が特徴的であることから観賞性もあり、消費者ニーズに対応できる品目と考えられる。

一方で、グリーンカーテン需用の高まりにより、苗物としての生産量は増えているものの鉢物としての生産量は少ない。

そこで、パッションフルーツの鉢物栽培技術を確立する。

[成果内容]

- 1 「紫 100g 玉」(*Passiflora edulis*×*P. edulis* f. *flavicarpa*) を無加温栽培で増殖する場合は、挿し芽を10月中旬頃までに行うと発根率が高い(表1)。
- 2 挿し芽時の節数を2節とすることで、側枝が発生した苗を効率良く得られる(表2)。
- 3 3月上旬までに15℃加温栽培を開始すると、5月中旬には1輪以上開花・結実した株となる(表3)。
- 4 鉢替え以降に緩効性肥料(商品名:プロミックスタンダード12:12:12)を1か月に1回、窒素成分で1.6g/鉢(中粒9粒 総N量:9.14g/鉢)施用することで、6月下旬までに行燈仕立てが5～6割程度被覆した状態となり、開花数も多く、観賞性が高くなる(表4、図1)。

5 4月下旬に6号ポットで行燈仕立てが5割程度被覆し、開花・結実した状態で出荷するには2月上旬から15℃で加温する。また、5月中旬に開花・結実株を出荷するには、3月上旬から加温する。どちらの作型においても、10月上旬に挿し芽を行い、11月上旬に3号ポットに鉢上げ、4月上旬に6号ポットに鉢替えする（表5、図2）。

[留意事項]

- 1 パッションフルーツは品種・系統によって開花・結実特性が大きく異なるため、「紫100g玉」以外の品種・系統を用いる場合は、事前に試験栽培を行うこと。
- 2 「紫100g玉」の挿し穂は南房総地域で入手可能である。

[普及対象地域]

県内全域の鉢物生産者

[行政上の措置]

[普及状況]

君津地域を中心に5戸

[成果の概要]

表1 挿し芽時期の違いが発根株率に及ぼす影響

挿し芽 時期	発根株率 (%)
10月 1日	100
10月19日	83
11月 9日	39

注1) 挿し芽後は5℃加温ハウス内で管理し、10月1日区は平成24年12月19日に、10月19日区及び11月9日区は平成25年1月9日に調査した（n=18）

2) 挿し芽用土の組成：赤土1:パーライト1:腐葉土2

表2 挿し穂の節数の違いが側枝発生株率に及ぼす影響

挿し穂の節数	発根株率 (%)	側枝発生株率 (%)
1節	97.2	33.9
2節	100.0	98.6

注1) 側枝発生株率：側枝が1枝以上発生している株の割合（n=71~72）

2) 平成25年10月24日挿し芽、平成26年3月10日調査
（挿し芽以降は15℃加温で管理）

3) 挿し芽用土の組成：赤土1:パーライト1:腐葉土2

表3 加温開始時期の違いが開花に及ぼす影響

加温 開始時期	開花 始め	累積開花数 (花/株)		
		5/15 以前	5/16 ～ 6/15	6/16 ～ 7/15
2月5日	4月29日	0.4	2.4	3.6
3月5日	5月16日	0.0	1.6	2.6
無処理	6月3日	0.0	0.6	1.4

注1) 平成24年12月19日から5℃加温ハウスで管理し、各区の日付より15℃加温ハウスに移動した (n=10)

表4 加温温度及び施肥量の違いが行燈被覆率に及ぼす影響

加温温度	施肥量	行燈被覆率
		(%)
5℃	少	35.0
	中	40.0
	多	52.5
15℃	少	37.5
	中	36.0
	多	62.5

注1) 平成25年9月18日に挿し芽し、11月8日に3号ポットに鉢上げした後、5℃加温で管理した。平成26年3月10日から5月2日までは各試験区の加温温度とし、5月3日以降は無加温とした。5月2日に6号ポットに鉢替えした。

2) 基肥はマグアンプK (6-40-6) を2g/L (培養土) とし、平成26年3月10日～5月2日にかけてハイポネックスプロ (20-20-20) 2,000倍液を1週間に1回の目安で施用した。5月2日以降、1か月に1回の目安でプロミックスタンダード (12-12-12) 中粒を以下の量で施用した。
少：1粒/鉢 (総N：6.26g/鉢) 中：3粒/鉢 (総N：6.98g/鉢) 多：9粒/鉢 (総N：9.14g/鉢)
(n=8)

3) 行燈被覆率：高さ50cm程度 of 行燈を設置し、鉢替え直後から茎葉を行燈に適時誘引した。平成26年6月30日に株全体をデジタルカメラで撮影し、画像中の茎葉が行燈を被覆する割合をadobe photoshop (アドビシステムズ株式会社) を用いて解析した (n=8)

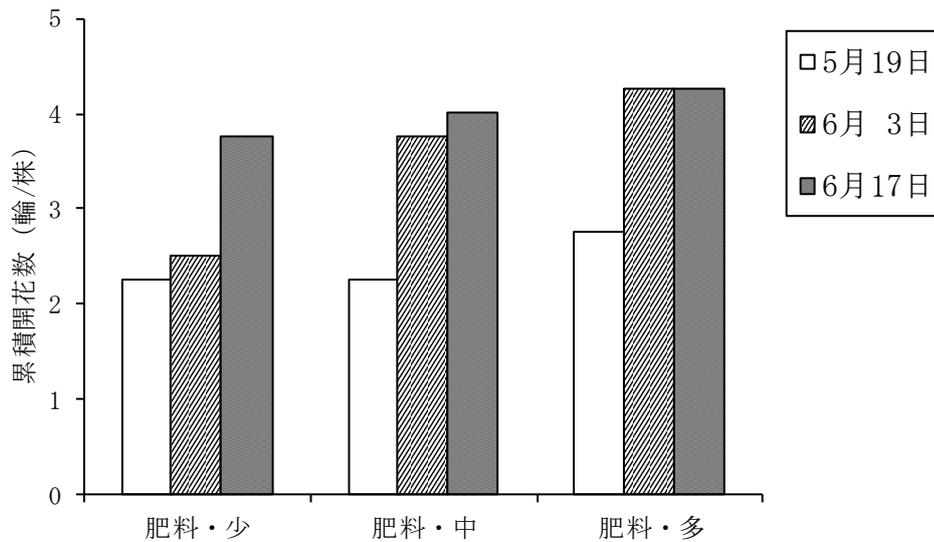


図1 鉢替え以降の肥培管理が累積開花数に及ぼす影響

- 注1) 平成25年11月8日～平成26年3月10日まで5℃加温、3月10日～5月2日は15℃加温
 2) プロミックスタンダード（12：12：12）中粒を1か月に1回の目安で施肥
 少：1粒/鉢（総N：6.26g/鉢） 中：3粒/鉢（総N：6.98g/鉢）
 多：9粒/鉢（総N：9.14g/鉢）（6号ポット n=8）

表5 パッションフルーツの栽培暦

加温開始時期	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
2月上旬	挿し芽	鉢上げ					鉢替え 開花・受粉		
3月上旬	挿し芽	鉢上げ					鉢替え 開花・受粉		

- 注1) ●—● : 72穴セルトレイ ◆—◆ : 3号ポット ←—→ : 6号ポット
 □ : 5℃加温 ▨ : 15℃加温 □ (点線) : 出荷期（高さ50cmの行燈を半分程度被覆）
- 2) 肥培管理：基肥としてマグアンプK（6-40-6）を2g/L（培養土）添加
 鉢上げから鉢替えまではハイポネックスプロ（20-20-20）2,000倍液を1週間に1回の目安で施用
 鉢替え以降は1か月に1回の目安でプロミックスタンダード（12-12-12）中粒を9粒/鉢添加
- 3) 培養土組成：挿し芽用土；赤土1：パーライト1：腐葉土2
 鉢上げ・鉢替え用土；赤土4：腐葉土3：無調整ピートモス2：パーライト1
 （ピートモス1L当たり苦土石灰3gを添加）



図2 開花・結実したパッションフルーツ

[発表及び関連文献]

[その他]